

島根原子力発電所周辺環境放射線等調査結果について

第2回出雲市原子力発電所環境安全対策協議会

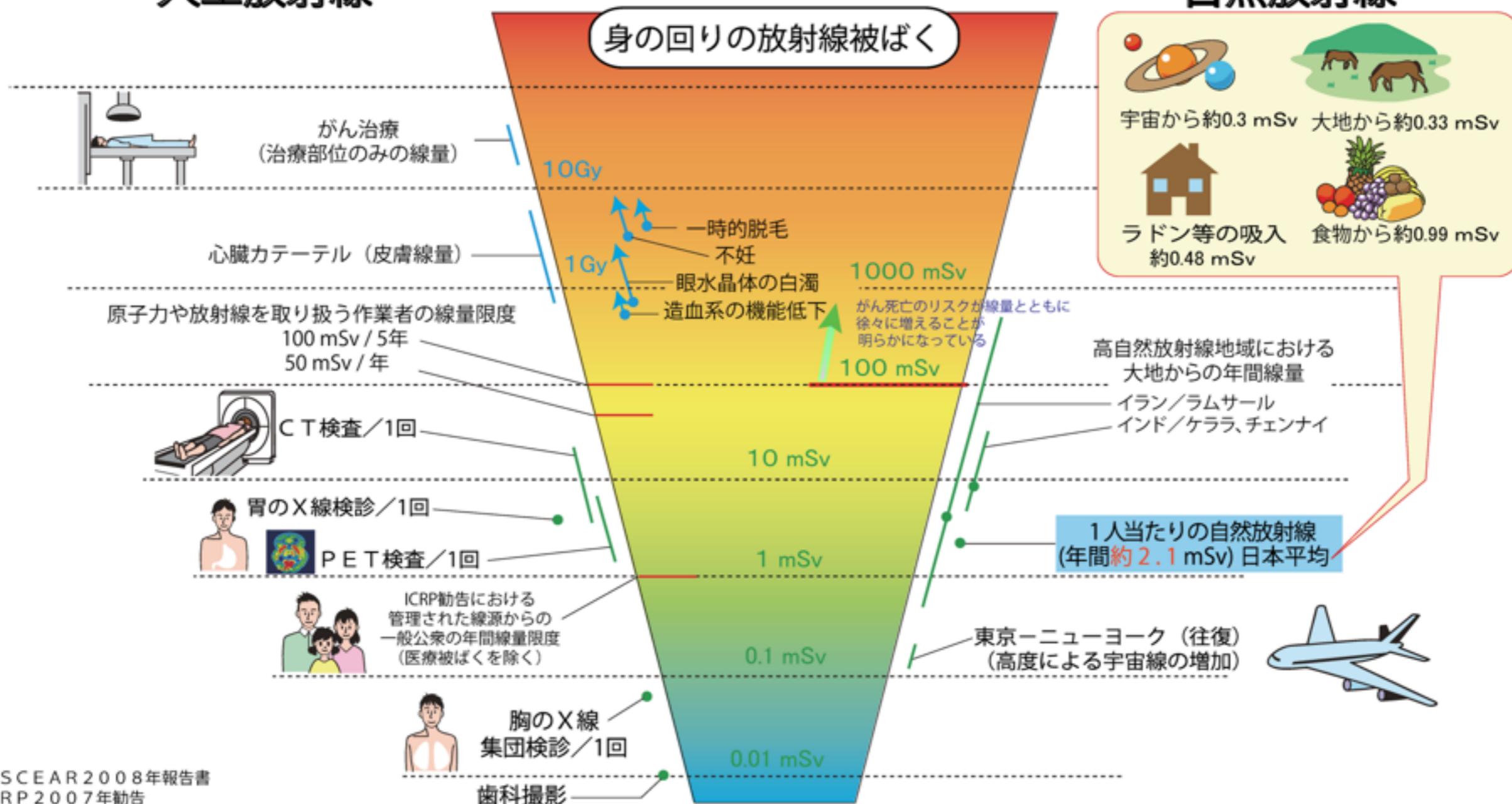
平成27年3月23日

島根県防災部原子力安全対策課
原子力環境センター 西 浩幸

放射線被ばくの早見図

人工放射線

自然放射線



・ UNSCEAR 2008年報告書
 ・ ICRP 2007年勧告
 ・ 日本放射線技師会医療被ばくガイドライン
 ・ 新版 生活環境放射線 (国民線量の算定)
 などにより、放医研が作成(2013年5月)

【ご注意】

- 1) 数値は有効数字などを考慮した概数です。
- 2) 目盛 (点線) は対数表示になっています。目盛がひとつ上がる度に10倍となります。
- 3) この図は、引用している情報が更新された場合変更される場合があります。

【線量の単位】

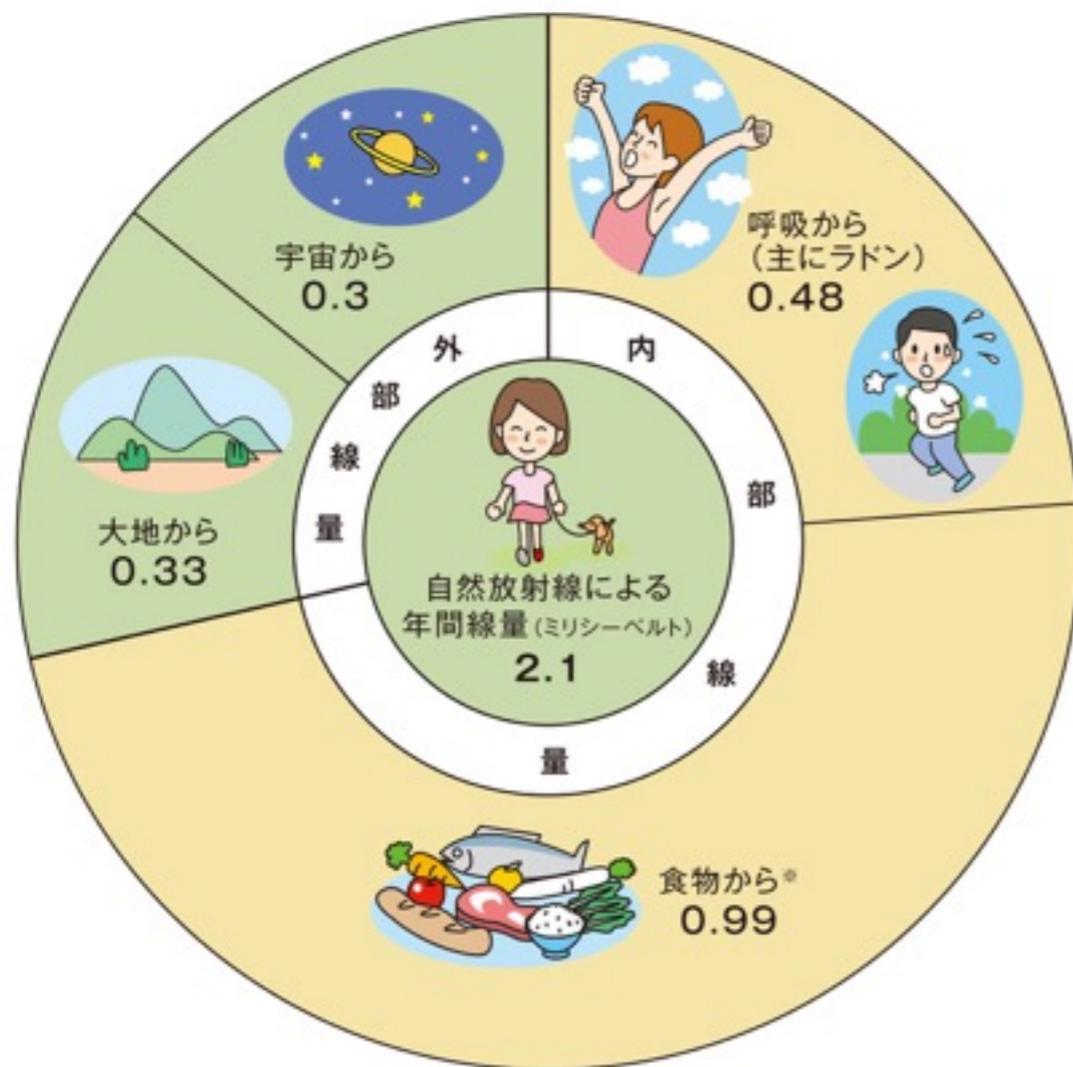
各臓器・組織における吸収線量: Gy (グレイ)
 放射線から臓器・組織の各部位において単位重量あたりにどれだけのエネルギーを受けたのかを表す物理的な量。

実効線量: mSv (ミリシーベルト)
 臓器・組織の各部位で受けた線量を、がんや遺伝性影響の感受性について重み付けをして全身で足し合わせた量で、放射線防護に用いる線量。
 各部位に均等に、ガンマ線 1 Gy の吸収線量を全身に受けた場合、実効線量で1000 mSv に相当する。

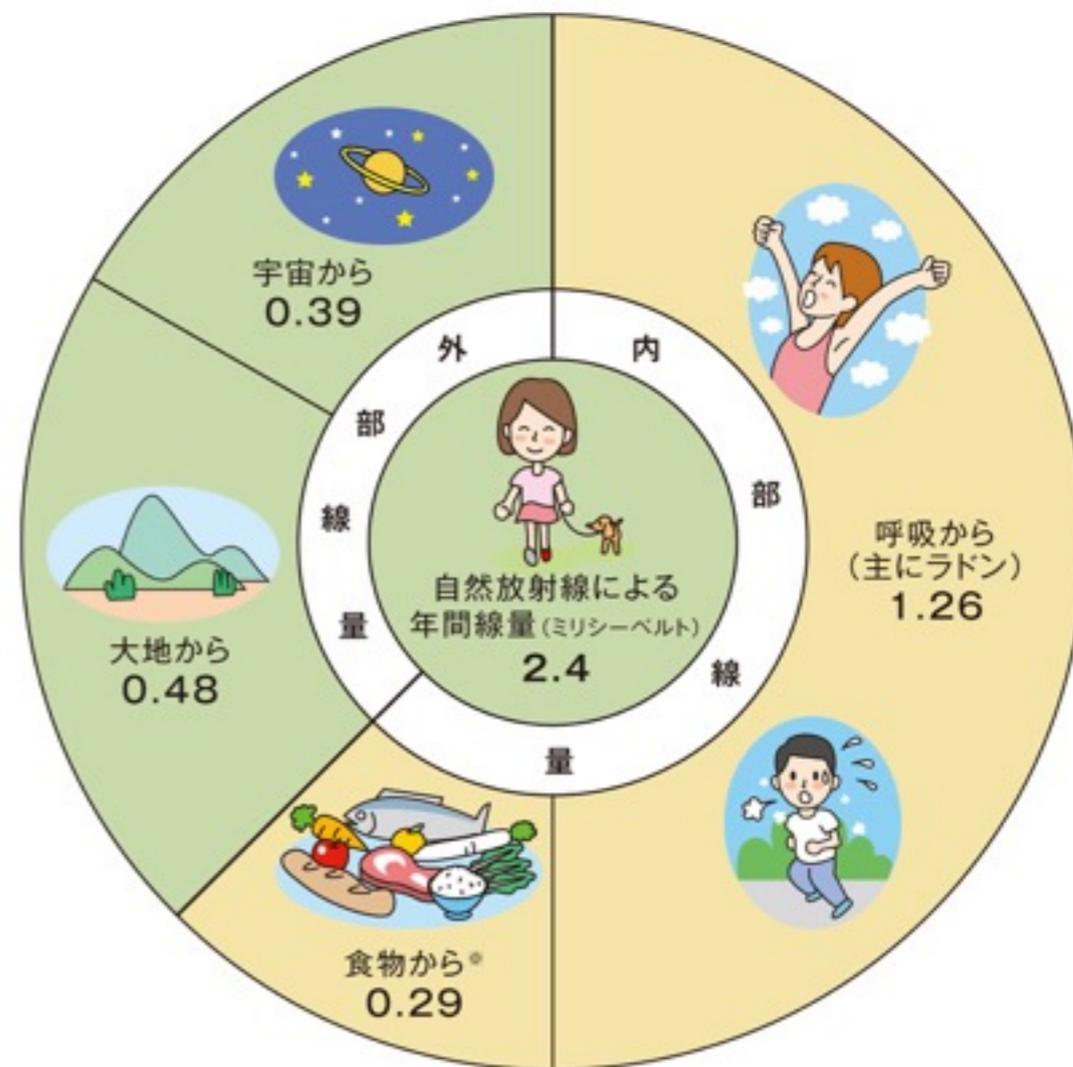
独立行政法人 **NIRS**
放射線医学総合研究所
<http://www.nirs.go.jp>
 Ver.130502

自然放射線から受ける線量

一人あたりの年間線量(日本平均)

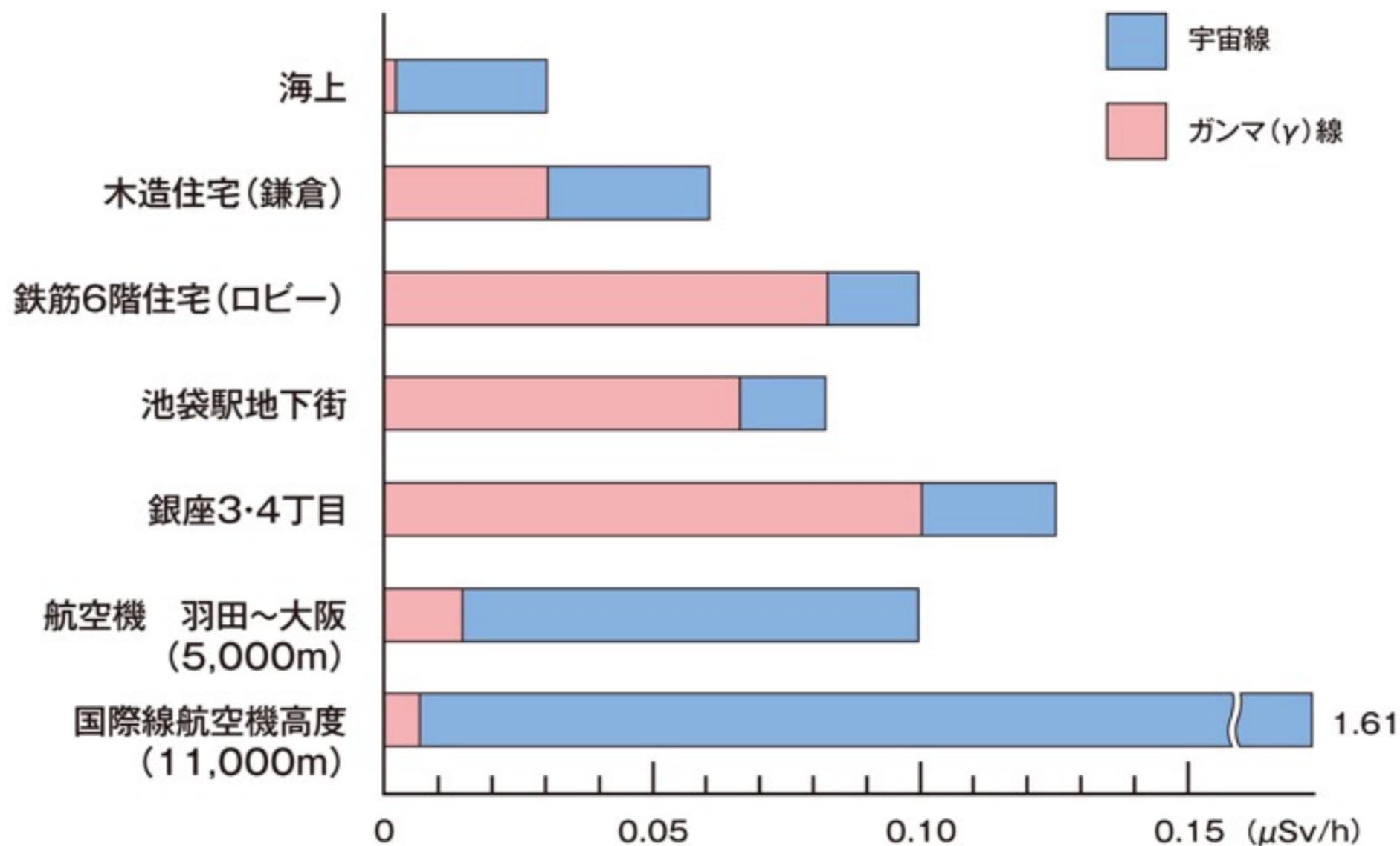


一人あたりの年間線量(世界平均)



※欧米諸国に比べ、日本人は魚介類の摂取量が多く、ポロニウム210による実効線量が多い

自然放射線レベルの違い



※ $1\mu\text{Sv}=1/1000\text{ mSv}$
 $1\mu\text{Sv/h}=365\text{日}\times 24\text{時間}\times 1/1000=8.76\text{ mSv/年}$